

ジェツン・チューキゲーツェンの没年

高 田 順 仁

15世紀末から16世紀初頭にかけて活躍したゲルク派の学僧ジェツン・チューキゲーツェン rJe btsun Chos kyi rgyal mtshan (1469—1544) はセラ僧院チューパ学堂 (Byes pa or mkhas snyan grwa tshang) で用いられる学堂教科書の著者として知られている人物である。しかしながら、そのこと以外の彼の事績等については、それ程知られてはいない⁽¹⁾。後述するように、筆者は彼の弟子の bDe legs nyi ma による伝記を披見する好運に恵まれた。彼の事績について、将来何らかの報告を行なう義務があると考えているが、本稿では、彼の没年の確認のみを行なうことにさせていただきたい。

ジェツン・チューキゲーツェンの没年は確定されていない。そのことは例えば、*A Catalogue of the Gedan sungrab minyan gyunphel series*, Part I, Nagoya Univ., 1985, p. 58において、彼の生存年代がキリスト紀元で1469—1544/1546とされ、彼の没年に二つの年が併記されていることから知られる⁽²⁾。

一般には、1546年がジェツン・チューキゲーツェンの没年として採用される場合が多い⁽³⁾。筆者の知る限り、彼の没年を1546年とするのは、A. I. Vostrikov, *Tibetan Historical Literature*, tr. by H. C. Gupta, Calcutta 1970 (Originally published in 1962) が最初である。同書では彼の生存年代は dKon mchog 'jigs med dbang po (1728—1791) の *ICang skya rol pa'i rdo rje'i 'khrungs rab* に関する note 311において与えられている。しかしながら、同文献を実際に調査すれば、彼の没年は1544年にあたる甲辰 (shing pho 'brug) の年であることが知られる⁽⁴⁾。したがって、この脚注が同文献に関するものである限り、Vostrikov がこの脚注でジェツン・チューキゲーツェンの没年を1546年としたのは、何等かの誤解に拠るものと判断される。

このたび幸いにして、筆者は、ジェツン・チューキゲーツェンの弟子の一人として数えられる bDe legs nyi ma による rJe btsun chos kyi rgyal mtshan dpal bzang po'i rnam par thar ba yongs su brjod pa'i gtam du bya

ba dngos grub kyi char 'bebs を複写にて入手することができた⁽⁵⁾。同文献には、ジェツン・チューキゲーツェンの没年のありさまが詳しく誌されている。それは以下のような記述から始まる。

de nas dgung lo don drug pa shing pho 'brug gi lo dus gcig gzhim khang gi rtse thog tu zhabs 'chag mdzad pa'i dus shig / nga da lo 'chi bar dug…… dga' ldan du 'gro ba'i rmi lam lan ga' 'byung gsungs / ibid., 29a5-29bl.⁽⁶⁾

この死の予告につづいて、その甲辰の年のホル暦の11の月の14の日にジェツン・チューキゲーツェンは発病され⁽⁷⁾、その18の日の夜には一時復調されるが⁽⁸⁾、19の日の未明に亡くなる、とある。そのありさまは次のように誌される。

bcu dgu'i nam seng la babs pa na / zhabs rdo rje dkyil krung bcas phyag gnyis mnyam gzhag mdzad nas dga' ldan chos kyi pho brang mi pham rgyal ba'i mdun sar / nam mkha' 'dri ma med pa dang 'jam dpal snying po' i sras kyi thu bor gshegs so // ibid., 31a4—5⁽⁹⁾

上掲の二つの資料を含めて、このたび筆者の知り得たジェツン・チューキゲーツェンの伝記資料のすべては、彼の没年を1544年にあたる甲辰の年とする⁽¹⁰⁾ ことにおいて一致している。したがって、没年を1546年とする Vostrikov の記述は、筆者の知る限り、資料的根拠をもたない。たとえば将来ジェツン・チューキゲーツェンの没年を1546年とする資料が見いだされるとしても、その記述は明らかに誤りである。おそらく一般に採用されている没年1546年説は、Vostrikov の犯した誤りをそのまま踏襲したものに過ぎないのではないだろうか。彼の誕生の年が1469年にあたる己丑 (sa mo gling) の年であることについては、資料的にも問題はない⁽¹¹⁾。したがって、彼の生存年代は1469—1544であることが知られる。

【註記】

- 1) ジェツン・チューキゲーツェンの略歴は、既に Khetsun Sangpo, *Biographical Dictionary of Tibet and Tibetan Buddhism*, Vol. 6, Dharamsala 1975, pp. 52-57 および Karl—Heinz Everding, *Die Praexistenzen der lCan skya Qutuqtus*, Wiedbaden 1988, pp. 154-155 に与えられている。K. Sangpo の用いられた資料は、ともに筆者未見であるが、*rJe skal ldan rgya mtsho* の *rNam thar tshig bca* および *Tshig lhug* と呼ばれる文献であり、K. Everding の研究は主として、モンゴル語 [訳] 文献に基づく。
- 2) さらなる一例として、『蔵漢大辞典』民族出版社 1985 下巻巻末の年表（1544 年の項と 1546 年の項）がある。
- 3) 東洋学術研究第 21 巻・第 2 号（特集・チベット仏教）東洋哲学研究所 1982, pp. 177, 184, 197 等。
- 4) 後註 9) 参照。
- 5) dKon mchog 'jigs med dbang po はジェツン・チューキゲーツェンの事績を誌すに際して、bDe legs nyi ma の記述を主な（あるいはただ一つの）情報源としていると思われる。両者を比較してみると、前者では、編者である dkon mchog 'jigs med dbang po により、ジェツン・チューキゲーツェンの事績を誌す上で余り重要でないと判断された数行が除かれているのみで、後者の記述のほとんどを、そのまま踏襲していることが知られる。
- 6) ≡ dkon mchog 'jigs med dbang po. 57bl-3,
- 7) bDe legs nyi ma, 30a5-30b2 (≡ dkon mchod 'jigs med dbang po, 58a5-58bl).
- 8) bDe legs nyi ma, 30b2-31a3 (≡ dkon mchod 'jigs

med dbang po, 58b1-59a2).

9) ≡ dkon mchog 'jigs med dbang po, 59a2-59a3.

10) ≡ dPal 'byor bsod nams lhun grub, 'Jam dbyangs rje btsun chos kyi rgyal mtshan gyi rnam thar, 4b3-5.

11) ≡ bDe legs nyi ma, 3a2-5; dPal 'byor bsod nams lhun grub, 1a3-4; dKon mchog 'jigs med dbang po, 40b2-4.

参考文献

Ma ni pa dDe legs nyi ma (c. 16th), *rJe btsun chos kyi rgyal mtshan dpal bzang po'i rnam par thar ba yongs su brjod pa'i gtam du bya ba dngos grub kyi char 'bebs*. 34 fols., New Delhi 1975.

dPal 'byor bsod nams lhun grub (1561—1637), 'Jam dbyangs rje btsun chos kyi rgyal mtshan gyi rnam thar, 5 fols. Tohoku No. 7054.

dKon mchog 'jigs med dbang po (1728—1791), *rJe btsun bla ma thams cad mkhyen pa lcang skya rol pa'i rdo rje'i 'khrungs rabs phren ba gtam du brjod pa ngo mtshar dad pa'i ljon shig*, composed in 1776. Ed. Bla brang, 121 fols., kha 40bl—60a6, New Delhi 1971.

【付記】

rJe btsun Chos kyi rgyal mtshan の事績を知る上で、最も大事な資料となる、bDe legs nyi ma によるそれを、筆者は、大谷大学ツルティムケサン氏のご好意により複写することができました。また、K. Everding の著書については、同大学三宅伸一郎氏にご教示いただきました。記して、ここに感謝申し上げます。